



藤田医科大学ばんたね病院 消化器内科 病院教授を拝命して

小林 隆 (13回生)

2025年3月1日付で藤田医科大学ばんたね病院消化器内科 病院教授を拝命いたしました。就任にあたり、藤医会会員の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。ばんたね病院病院長、藤医会会长の堀口明彦先生、ばんたね病院消化器内科学主任教授の橋本千樹先生をはじめ、私を本役職にご推挙いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は1990年に本学医学部を卒業し、2年間の臨床研修を経て、ばんたね病院の消化器内科学教室(中澤三郎教授)に入局いたしました。その後、医学部第一生化学教室(石黒伊三雄教授)に籍を移し、当時助教授であられた太田好次先生から4年間基礎研究のノウハウを学び、活性酸素による急性胃粘膜傷害の発症と進展機序に関する研究で学位を取得しました。

1996年よりばんたね病院消化器内科学教室に在籍し、他施設へ異動することなく今日に至っております。現在ばんたね病院に勤務する医師の中で最古参です。入局以来、中澤三郎教授、芳野純治教授、乾 和郎教授、片野義明教授そして、現在は橋本千樹主任教授のご指導のもと、主に消化管疾患分野の診療、教育、研究に励んでいます。加えて、2000年から延べ18年間にわたり医局長を務め、当時30名近くの大所帯であった医局運営等にも携わって参りました。

消化器病学に関する学会には積極的に参加し、日本消化器病学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医、日本消化器がん検診学会指導医・総合認定医などの資格を早期から取得し、後進の育成を行っています。また、2018年には日本消化器内視鏡学会東海支部ガイドライン研修会会长、2023年には日本消化器がん検診学会東海北部支部地方会会长を務めさせていただきました。

診療・研究面では、消化管疾患の中でも未だ十分な治療法が確立されていない好酸球性消化管疾患を現在専らのテーマとしていますが、この研究成果の一端が契機となって消化器内科はばんたね病院総合アレルギーセンターの診療部門に加えていただ

くことができました。「アレルギーに強いばんたね病院」はすでに周知されています。総合アレルギーセンター長で総合アレルギー科教授の矢上晶子先生のもとには、診断治療が困難と判断された様々なアレルギー症状の患者さんが全国のあらゆる施設から紹介されます。その中で何等かの腹部症状を訴えられる方がおいでになった場合、いつも私にご紹介をくださいます。精査を進めていきますと、好酸球性消化管疾患の患者さんがかなりの割合で含まれていることがわかつてきました。それゆえに当院は他施設に比べ圧倒的に本疾患の患者さんの数が多くなってきており、当科へ直接ご紹介をいただける機会も増えてきました。総合アレルギーセンターにおける診療科の垣根を越えたお力添えの上に私の診療・研究が成立しているといつても過言ではなく、大変感謝しております。アレルギーが関与した好酸球性消化管疾患を扱う消化器内科があることを、ばんたね病院のひとつの「特色」として今後もアピールしていきたいと考えています。

また私は、ばんたね病院の地域医療連携センター長を兼任させていただいている。周辺の医療機関や地域住民の皆様に最も頼られる“ばんたねさん”として、藤田医科大学ばんたね病院がさらに発展していくために、聊か微力ではございますが労を惜しまず尽力する所存です。藤医会同窓の皆様方におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

